



きらきら Eyeランド

JA 庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第10号

発行：庄内みどり農業協同組合

協力：酒田農業技術普及課

稲刈りまでラストスパート！！ 徹底した水管理で登熟促進・稲体保護！

今後は、今まで以上に高温で経過し稲刈りが早まることが予想されるため、草刈り休止期間は8月22日までと致します。（8月23日から草刈り可）

生育期間中の好天により、出穂期は平年より4日程度早まりました。（下表参考）

仙台管区气象台の1か月予報（7月30日発表）によると、今後1か月の気温は引き続き高くなると予想されています。出穂後20日間の平均気温、最低気温が高いと白未熟粒の発生が懸念されます。気象予報を確認しながら、よりきめ細やかな水管理を徹底し、高品質米に仕上げましょう。

病虫害防除所の発生予察情報（7月29日発表）では、斑点米カメムシ類が「多い」、穂いもちが「平年並」、紋枯病が「やや多い」となっております。昨年同様、平坦部を含む広範囲で葉いもちが確認されています。圃場の見回りを行い、病虫害の発生が確認された場合は各自追加防除を実施しましょう。

出穂期以降も高温で経過しておりますので、刈取りが早まると予想されます。適期刈取りに向け、コンバイン・乾燥機等の点検整備などは早めに実施しましょう。

◎出穂盛期（平坦部）

ふくひびき	はえぬき・ひとめぼれ	雪若丸	つや姫
7/25	7/27	7/28	8/7

技、其の一 高温による品質低下を防ぐ、徹底した水管理！

出穂期以降も高温が続いていることから、胴割粒・白未熟粒による品質低下が懸念されます。管内では、過去に高温による品質低下が発生しています。（右図）

収穫期まで気を抜かず、きめ細やかな水管理で品質向上に努めましょう。

【高温年での酒田飽海地域の一等米比率】

平成11年	6%	（乳白粒等の多発）
平成18年	87%	（胴割粒の多発）
平成22年	75%	（乳白粒等の多発）
令和5年	26%	（乳白粒等の多発）

《高温時の水管理》

◇長期間の湛水は根痛みや根腐れの原因になります。高温時は水を張ったままにせず、間断灌水と飽水管理を併用し、圃場内の温度低下に努めましょう。

◇夜間（早朝）灌水→自然落水→夜間（早朝）灌水の繰り返しによる「間断灌水」を行いましょう。（気温が下がる夜間または早朝に入水しましょう。）

◇出穂後6～10日頃の気温が高いと胴割粒が発生し、出穂後20日間の平均気温と最低気温が高いと白未熟粒が増加します。

～飽水管理のメリット～

湛水管理と比べて①夜間の地温が0.5℃程度低くなります。②土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持されます。③少量の水で効率的に圃場全体へ行き渡らせられるため、節水につながります。

※飽水管理とは、水深3cm程度まで入水⇒自然減水⇒田面露出⇒作溝等に水が残る程度⇒再び入水、左記を繰り返す。

《登熟期の水管理》

出穂後日数	圃場の土壌水分保持の目安
～20日	くぼみ、作溝等に水が残っている程度それ以上は乾かさない
21日～30日	足を入れて、かかとの部分に水がにじみ出る程度
31日以降	黒乾亀裂（一部ひびが入る程度）※白乾亀裂までにはせず、刈取り間近になったら作業に支障のない程度まで乾かす

土地改良区の水利使用規則、ならびに地区の配水（番水）計画を必ず守り、地域全体に水が行き渡るようにしましょう

◇出穂後30日間は玄米形成に最も重要な時期です。2湛2落（間断灌水）を基本に飽水管理を併用し、収穫時まで土壌水分を切らさず根の活力維持に努めましょう。

◇完全落水は出穂から31日以降とします。早期落水は登熟を妨げ、品質及び収量低下につながってしまいますので、最後まで土壌水分を切らさないようにしましょう。

◇庄内地域は海洋性の気候により、日中と夜間の温度差が小さい地域です。夕方灌水を基本とし、日中と夜間の温度較差により登熟を促進しましょう。

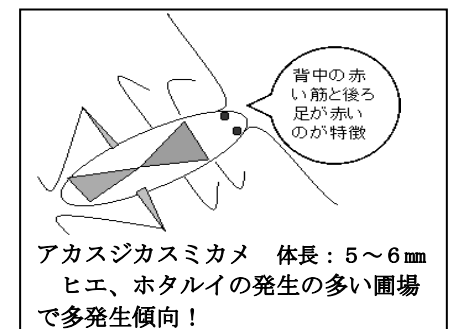
◇フェーン現象や台風による強風は、稲体水分を低下させ、白穂や茶米の発生を招きます。強風時は稲体の水分低下、消耗を防ぐために一時的に3～5cm程度湛水し稲体を保護しましょう。

技、其の二 斑点米カメムシ類の発生多い！

① 斑点米カメムシ類

病虫害防除所の発生予察情報（7月29日発表）では、発生量は「多い」となっており、すでに注意報も発令されております。カメムシ被害防止のためには、**8月の草刈り休止期間中は草刈りを控え、圃場内への侵入を防ぎましょう。**

※例年カメムシ被害の発生が多いところは、追加防除を実施しましょう。



（裏面に続く）

② 穂いもち

今年は平坦部でも葉いもち病が広範囲で確認されています。上位葉に葉いもちが見られた圃場では、穂いもちの発生が懸念されます。圃場全体を注視し、発生が見られた場合は直ちに追加防除を実施しましょう。

○使用薬剤

ブラシン粉剤 DL 3～4 kg/10a（使用は収穫7日前まで）

※特別栽培米は計画された薬剤以外は使用できません。必ず営農課へご確認下さい。

技、其の三 適期刈取りに向けて！

出穂後も高温で経過しているため、刈取りが早まることが予想されます。収穫作業に備え早めの機械点検等を行い、余裕をもって適期刈取りに向けた準備を進めましょう。積算気温より算出した刈取り時期の予測は以下の通りです。
(予測値：7月27日出穂のはえぬき刈取り適期9/1～9/10)

<大豆> 大豆の管理はこまめな巡回と適期防除を！

今年の大豆の開花期は平年並みとなっています。現在の生育量は圃場による差はみられますが概ね順調に推移しています。

今後、高温の日が続くとジャガイモヒゲナガアブラムシの急激な発生が懸念されますので、こまめな圃場巡回と早期発見・早期防除に努めましょう。

品 種		エンレイ	里のほほえみ
開花期		7/25頃	7/29頃
防 除 適 期	紫斑病	開花期25日後～35日後	
	マメシクイガ	1回目 8月25日頃 2回目 9月4日頃	

○紫斑病防除は莢にも薬剤が付着するよう丁寧に散布しましょう。

○マメシクイガの発生は毎年8月下旬～9月上旬です。適期防除を行いましょう。

○アブラムシ防除は葉裏にも薬剤が十分かかるよう散布しましょう。

○防除薬剤については、「大豆生産基準」に基づき指定薬剤を使用しましょう。

「やまがた米づくりナビ」

刈取適期マップ

刈取の優先順位が一目で分かる！

9月上旬 更新！！

「やまがた米づくりナビ」

←アクセスはこちら

酒田普及課 LINE

生育診断圖の登熟調査結果
8月下旬から配信します！

←友達登録はこちらから

台風接近時の対策

台風が周期的に発生する時期になりました。強風による稲体の消耗並びにフェーンによる被害を防ぐため、台風の接近が見込まれる場合は早めに圃場への入水をお願いします。



夏期のアスパラガスハウス栽培の管理情報

1. 換気

ハウス内温度が高くなると若茎の穂先が開きやすくなるので、ハウスサイドの開放以外にも、ハウス入口や妻窓を開けてできる限り温度上昇を抑える。

2. 灌水

(1)土の乾き具合を見ながら、適宜かん水して草勢を維持する。

(2)土壌水分は、堆肥マルチ下の土を握ったとき土が崩れにくい状態を保ち、かつ、畝間の土壌表面が乾かない状態を維持する。

・晴天が続く場合はかん水頻度を多くし、乾湿差を出さないように注意する。

(3)早朝または夕方にかん水する。なお、夕方に行うと夏場の夜の地温を下げるができる。

3. 茎葉管理

(1)立てた茎葉は倒れないように上部にマイカー線等を張り倒伏を防止する。

(2)下枝：地際から70cmくらいまでの下枝や、その基部から発生する枝は随時除去して、日当たりや風通しを良くする（若茎の着色促進、病害の発生防止）。

(3)側枝：通路に垂れ下がり、防除や若茎への日当たりを邪魔する側枝は、必要に応じて葉先を切って整理する。

※収穫時に葉先が眼や顔などに当たらないように注意する。

(4)枝の除去作業は、切り口が夕方まで乾くように、晴れた日に行う。

4. 防除

(1)収穫終了期までは15日間隔を目安に薬剤による防除を行う。

(2)薬剤は作用性の異なるものをローテーションで散布し、薬液は茎葉だけでなく、株元にもかかるように散布する。

(3)茎葉の整理を行った後には、殺菌剤を予防散布する。

(4)薬剤による防除とあわせて耕種的な対応も行う。

①圃場の排水対策を行う

②過繁茂を避け、適正立茎数(収穫1年目は4～5本/株、2年目以降は9～10本/m)を維持する。

③倒伏防止に努める。

④下枝を整理して、通風、採光を良くする。

⑤病茎葉は速やかに圃場外に出す。

⑥泥はねを防ぐため、堆肥マルチを行う。

5. 追肥

(1)草勢を見ながら速効性の液肥や粒状肥料などで、10a当り窒素成分で1回2～3kg程度を7日～14日おきに施用する。

(2)施肥の位置は畝の肩から通路の部分に行う。

★次号の発行は9月10日(予定)です！